

講義科目名称：キリスト教平和学特論

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in Christianity and Peace

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
金 永秀			

授業のテーマ及び到達目標	諸宗教間における戦争と平和についての比較研究を通じてより普遍的な平和思想の構築と特に日本国憲法の平和概念におけるキリスト教的モチーフの研究
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：シラバスの説明及び授業の進め方。平和学とは何か？</p> <p>第2回 キリスト教の基礎</p> <p>第3回 旧約聖書における戦争と平和 シャローム</p> <p>第4回 新約聖書における戦争と平和 パックス・ロマーナとエイレーネー</p> <p>第5回 平和研究と平和の概念</p> <p>第6回 沖縄戦の体験</p> <p>第7回 戦争形態の歴史的展開</p> <p>第8回 戦争の原因1：経済的要因</p> <p>第9回 戦争の原因2：政治的要因</p> <p>第10回 戦争の原因：心理的要因</p> <p>第11回 戦争・平和理論</p> <p>第12回 現代における戦争と平和</p> <p>第13回 平和の思想2</p> <p>第14回 平和構造の構築</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要	本講義は、下記の授業計画に沿ってなされることを前提に、授業の進め方について説明する。まず、基本は、旧新約聖書と以下に掲げるテキスト、参考書並びにキリスト教関係の参考プリントに基づいて授業を進める。尚、授業に平行して学生は課題発表をし、全体で討論する。目標は、他宗教、多様な文化と価値観の工作する現代世界が直面する危機の中で、「平和創造に参画する人材」の指標を明確に持つことを目指す。
予習	授業初めに提示されたスケジュールに合わせて準備をする。その他、必要教材（プリント等）必要に応じて、プリント・視聴覚教材を用いる。
復習	進展していく授業に合わせて、到達度を確認する。
テキスト	高島通敏et al. 『平和研究講義』岩波書店、2005  ¥2100＋税 上田隆子et. Al. 『平和のグランドセオリー序説』風行社、2007 ¥2000＋税 松田 央 『キリスト教の基礎』キリスト新聞社、2997・・・1800＋税
参考書	ヨハン・ガルトゥングet. al. 『ガルトゥング平和学入門』法律文化社、2006、¥2500＋税 日本平和学会編『スピリチュアリティと平和』早稲田大学出版部、2007、¥3200＋税 キリスト教関係文献については、プリントを配布。
評価方法・評価基準	課題レポート（50%）、発表（25%）、ディスカッション（25%）への貢献度等により、総合的に評価。
履修上の注意	特になし

講義科目名称：異文化コミュニケーション学特論 I

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in Inter-Cultural Communication I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
仲里 和花			

授業のテーマ及び到達目標	異文化背景をもつ人とのコミュニケーションに影響を与える心理的・社会的要因について学び、異文化コミュニケーション研究への基礎知識を得ることができる。
授業計画	<p>第1回 コミュニケーションの基礎概念</p> <p>第2回 文化とコミュニケーション</p> <p>第3回 メッセージとしての言語と非言語コミュニケーション</p> <p>第4回 自己と自己概念、知覚・認知過程と文化</p> <p>第5回 イメージ、ステレオタイプ、偏見―「韓流」再考（偏見通減効果）</p> <p>第6回 対人関係と異文化コミュニケーション―異文化間の友情関係構築</p> <p>第7回 組織における異文化コミュニケーション―多文化組織におけるコミュニケーションと日本人リーダー</p> <p>第8回 異文化のレトリック</p> <p>第9回 異文化交渉と通訳</p> <p>第10回 カルチャーショックと適応過程</p> <p>第11回 文化摩擦とコミュニケーション</p> <p>第12回 教育と異文化コミュニケーション：―多様な言語文化観を持った英語教員の育成</p> <p>第13回 マスメディア、グローバリズム、アイデンティティ</p> <p>第14回 言語選択と英語 1) 「国際英語」におけるメディアリテラシー教育の実践 2) 異文化間コミュニケーションのための外国語教育―国際英語及び英語支配の視点から</p> <p>第15回 沖縄における異文化コミュニケーション</p> <p>第16回 まとめ（小論文提出）</p>
授業の概要	異文化コミュニケーション研究に関する基礎的かつ入門的な知見を得ることを目的とする。具体的には、文化的背景の異なる人々が交流し関係を構築していくコミュニケーションの過程において、文化に起因する要因がいかなる影響を与えているのかを個人、対人、集団、国家、国際レベルで研究する。
予習	テキスト・論文を読んでくること。発表の準備をすること。
復習	発表の内容の復習とテキスト・論文を読むこと
テキスト	久米昭元・長谷川典子『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣） 他・論文を使用（内容は学生の研究テーマにより変更あり）。
参考書	伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社） 西田ひろ子『異文化間コミュニケーション入門』 石井敏・久米昭元（編集）『異文化コミュニケーション事典』春風社 石井敏・他『異文化コミュニケーション・ハンドブック』（有斐閣） W.B. Gudykunst, Theorizing about Intercultural Communication, Sage
評価方法・評価基準	クラス参加度（授業態度、発言、口頭発表など40%）、プロジェクト・ペーパー（60%）
履修上の注意	特になし

講義科目名称：英語教育学特論 I

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in English Education I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	領域コア科目(英語教育領域)
担当教員			
Christopher Valvona			

授業のテーマ及び到達目標	The goal of this course is for students to become familiar with core theories, principles, and approaches related to English language education, with a view to applying them in future, more practice-based classes. Students will read original papers and/or books, critically evaluate the material, and take part in class discussions and presentations.
授業計画	<p>第1回 Introduction to English as a Foreign Language</p> <p>第2回 Theories of Second Language Acquisition (SLA)</p> <p>第3回 Issues in Second Language Acquisition: learner differences, autonomy</p> <p>第4回 Issues in Second Language Acquisition: motivation and attitude</p> <p>第5回 Models of Language Instruction (1) traditional theories and approaches</p> <p>第6回 Models of Language Instruction (2) communicative, Task-based language teaching (TBLT), Content and Language Integrated learning (CLIL)</p> <p>第7回 Models of Language Instruction (3) alternative approaches</p> <p>第8回 Language Teaching Materials (1) development</p> <p>第9回 Language Teaching Materials (2) types of materials, authentic vs pedagogic</p> <p>第10回 Language Teaching Materials (3) implementation</p> <p>第11回 Principles of developing grammar and vocabulary skills</p> <p>第12回 Principles of developing pronunciation</p> <p>第13回 Principles of developing speaking and listening skills</p> <p>第14回 Principles of developing reading and writing skills</p> <p>第15回 Current trends in SLA research</p>
授業の概要	This course introduces the basic concepts of second language acquisition and teaching English as a foreign language. It also looks, from a theoretical perspective, at issues that are relevant to the modern language classroom, such as methods of instruction, the development and use of appropriate teaching materials, and differences among language learners, and ways of teaching specific skills. Students will also consider current trends in research relating to SLA and English language teaching.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for pre-readings of upcoming topics and further readings of topics covered
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	There is no textbook but a reading list is provided
参考書	Refer to Harmer, J. 2015. The Practice of English Language Teaching (5th ed.). Pearson Education
評価方法・評価基準	Students will give regular presentations about the topics covered in the class, and will write a final report about one topic of their choosing. Evaluation is as follows: In-class participation: 30% Presentation (research and preparation): 30% Final report: 40%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：比較人文学特論

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in Comparative Humanities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	領域コア科目(異文化交流領域)
担当教員			
近藤 功行			

授業のテーマ及び到達目標	<p>本学大学院は人文科学系の学問領域であるが、修士論文で想定されるテーマは多岐にわたると予測される。社会科学系また自然科学系の学問領域との融合も予想される。そのため、従来の専門枠にあてはまらない独創的・萌芽的な研究、とりわけ先端研究を担う内容を追求するところにある。あくまで、ベースは人文学の分野であるが、比較人文学としたところは、自由な横断研究にある。このため、各自が目標とする修士論文のテーマ、その柱や小枝の部分などを探りつつ、学問構築をはかることが本講義の到達目標であり、目標とするところである。</p>
授業計画	<p>第1回 「人文学」(Humanities and the Social Sciences)とはなにか 一人文学の位置づけー</p> <p>第2回 琉球文化・日本文化ー地域の生活的諸現象をとらえる視点ー</p> <p>第3回 火の神考・檜山伏考ー基層文化を探る視点ー</p> <p>第4回 沖縄の民俗事象をまなぶ：薬用動物、薬草、フーチバー</p> <p>第5回 沖縄の民俗事象をまなぶ：漢方、鍼灸</p> <p>第6回 沖縄の民俗事象をまなぶ：民俗医療、ヤブー</p> <p>第7回 奄美の民俗事象をまなぶ：シニグ、十五夜踊り、洗骨</p> <p>第8回 鹿児島島の民俗事象をまなぶ：石塔を覆う屋根</p> <p>第9回 台湾の民俗事象をまなぶ：火葬場、冠婚葬祭、ハンセン病療養所</p> <p>第10回 日本の民俗事象をまなぶ：日本人の宗教観、世界観と近代人の人間観</p> <p>第11回 北欧の民俗事象をまなぶ：北欧の神話、フィンランドシャーマン治療の構造</p> <p>第12回 人文科学の壁を越えた学問①：欧米の生命倫理観と日本との相違点をとおして</p> <p>第13回 人文科学の壁を越えた学問②：アメリカにおける代理出産、生殖医療を中心として</p> <p>第14回 人文科学の壁を越えた学問③：鎖国崩壊前の琉球と奄美、外国人宣教師の布教</p> <p>第15回 まとめ(課題提出に向けて)</p> <p>第16回 試験に代わる課題説明&amp;総括</p>
授業の概要	<p>比較人文学は、自由な発想で諸学問を横断するような研究を目指すところにある。人類学、人類生態・働態学的なフィールド・ワーク手法、現地調査、現場での研究による一次資料の収集そして分析、そこに至る研究手法と研究の重要性についての教示、などである。第6章構成の修士論文を想定した場合、この論文は有機的になおかつ、推理小説のように、ゴールに向かっての完結作品が要求される。つまり、論文構成また、展開される文章においては、書いているものすべてが意味をもつのである。そういった具体的な論述法はもとより、論文構成を通して、人文諸科学のどの学問がベースになり、論文が構成されてゆくのかを検討しつつ、個々人の修士論文がどういったかたちで形成されることが、最終章を導くことになるのかも含めて、指導を図る。幸い、私たちは琉球文化・日本文化、これらの文化に触れながら、各自のテーマ追求に入っていると考えられる。こういった出発点を重視しながら、また各自の研究の膨らみをとらえながら、研究の柱を築く内容に発展させてゆく。</p>
予習	<p>毎回、資料配付を行います。それを元に、学習補助としてください。わかりにくいところを、質問する準備をしておいてください。</p>
復習	<p>この日の講義、また配布した講義資料で、わかりにくいところを見ておいてください。このあと、予習内容に移行します。</p>
テキスト	<p>講義に必要な内容は、毎時間、担当者がプリントを作成して講義に臨みます。事前に購入する書籍はありません。</p>
参考書	<p>近藤功行・小松和彦(編著) 『死の技法』 ミネルヴァ書房、2008</p>

評価方法・評価基準	毎回の講義では、担当者が独自のB4版1枚の感想用紙を作成して配布します。左側には質問事項を書き、右側には講義の意見や感想を書く欄を設けます。それを毎回提出してください。なお、試験は行わず、試験にかわる課題を提出してもらいます。修士論文構成においては、第6章構成で全体が描けることを目標に、章立てを含めて、自分の論文の全体像が描くことができるように導きながら、こういった課題をみながら、総合的な評価を下してゆきます。 試験：90% 授業への参加度：10%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：異文化コミュニケーション学特論Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in Inter-Cultural Communication Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
仲里 和花			

授業のテーマ及び到達目標	異文化コミュニケーション学特論Ⅱに引き続き、異文化コミュニケーション研究への理解を深める。理論面は受講生の発表と討議形式をとり、異文化コミュニケーションに関する既存の代表的理論の考察と批評ができることを目標とする。次に、異文化摩擦の事例研究を通してそれらの要因を考察することで、自国の文化と相手の異文化に対する相互理解を深める。また、多文化共生社会に不可欠なコミュニケーション能力を育成するための英語教育のあり方についても考察する。
授業計画	<p>第1回 理論 メッセージ中心の理論（線形系コミュニケーションモデル、意味協応調整理論）</p> <p>第2回 理論 対人関係中心の理論（帰属理論、間人主義理論、自己開示、）</p> <p>第3回 理論 集団・組織中心の理論（集団主義・個人主義、アイデンティティ理論、シンボリック相互作用理論など）</p> <p>第4回 理論 異文化接触中心の理論（不確実性減少理論、異文化適応理論）</p> <p>第5回 理論 コミュニケーション能力（コンピテンス、コミュニケーション調整理論、非言語コミュニケーション、異文化リテラシーなど）</p> <p>第6回 理論 偏見、イメージ、ステレオタイプ</p> <p>第7回 理論 非言語コミュニケーション 空間・時間・言語と「場」の理論（ゲブサーの意識構造理論）</p> <p>第8回 実践面 海外留学、海外赴任</p> <p>第9回 実践面 帰国・帰郷</p> <p>第10回 実践面 日本在住外国人</p> <p>第11回 実践面 国内・海外での異文化摩擦</p> <p>第12回 実践面 国際文化交流・協力</p> <p>第13回 実践面 メディア・スポーツ交流</p> <p>第14回 実践面 国際理解教育（開発教育）</p> <p>第15回 実践面 グローバル化と英語教育</p> <p>第16回 まとめ（小論文提出）</p>
授業の概要	異文化コミュニケーションの理論と実践を学ぶ。テーマとして、メッセージ関係、対人関係、集団・組織、異文化接触中心の理論、コミュニケーション能力の理論などを扱う。実践面では、地域、民族、言語・非言語、ジェンダー、世代など広い意味での文化的背景の異なる人々が接触し、交流・交渉する際に起きるギャップ、すれ違いなどの結果起きた異文化摩擦の事例研究、ビデオ鑑賞、討論などの方法で進めてゆく。具体的には、海外留学、海外赴任、帰国後再適応、在日外国人、国内・海外での摩擦、国際交流・協力、メディア・スポーツ交流、英語教育などを取り上げる。
予習	テキスト・論文を読み、発表の準備をしてくること。
復習	テキスト・論文を再度読み、内容の理解をすること。
テキスト	石井敏・他『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣 久米昭元・長谷川典子『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣） 他・論文（内容は学生の研究テーマにより変更あり）
参考書	池田理知子・E. M. クレーマー著『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣 古田暁・他『異文化コミュニケーション・キーワード』（有斐閣） 石井敏・久米昭元（編集）『異文化コミュニケーション事典』春風社 Kim & Gudykunst [Theories in Intercultural Communication ](Sage) William B. Gudykunst [Theorizing about Intercultural Communication] (Sage)

評価方法・評価基準	クラス参加度（授業態度、発言、口頭発表など40%）、プロジェクト・ペーパー（60%）
履修上の注意	特になし

講義科目名称：英語教授法特論

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in English Language Teaching

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	領域コア科目
担当教員			
大城 直人			

授業のテーマ及び到達目標	「教室第二言語習得 (Instructed Second Language Acquisition)」の理解を深め、英語の学習及び指導における理論と実践について考究し、効果的な学習法・指導法を模索する。
授業計画	<p>第1回 講義概要／英語教育の今日的課題</p> <p>第2回 「教室第二言語習得」とは</p> <p>第3回 第二言語学習者が習得する知識</p> <p>第4回 教室内におけるインタラクション</p> <p>第5回 フォーカス・オン・フォーム</p> <p>第6回 文法の習得</p> <p>第7回 語彙の習得</p> <p>第8回 発音の習得</p> <p>第9回 語用論的知識の習得</p> <p>第10回 学習環境と第二言語習得</p> <p>第11回 学習者の個人差</p> <p>第12回 早期英語教育</p> <p>第13回 アクティブ・ラーニング</p> <p>第14回 インストラクショナル・デザイン</p> <p>第15回 Book Review &amp; Presentation</p> <p>第16回 予備日</p>
授業の概要	「教室第二言語習得 (Instructed Second Language Acquisition)」を理解する上で重要なトピック (明示的／暗黙的学習, インタラクション, フォーカス・オン・フォーム, 語彙・文法・発音の習得, 学習者の個人差など) に焦点を当て議論を行う。また, アクティブ・ラーニングやインストラクショナル・デザインについても理論や概念を取り上げ, より良い授業の在り方を討議する。
予習	テキストの指定された章を読み要約を行い, 議論の論点 (質問事項) をまとめる。
復習	講義内容を踏まえ, 扱ったトピックについて省察し, レポートにまとめる。
テキスト	・ Loewen, S. (2015) Introduction to Instructed Second Language Acquisition, New York, NY: Routledge.
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Ellis, R. &amp; Shintani, N. (2014) Exploring Language Pedagogy through Second Language Acquisition Research, New York, NY: Routledge.</li> <li>・ Brown, D. H. (2014) Principles of Language Learning and Teaching (6th ed.), New York, NY: Longman</li> <li>・ Larsen-Freeman, D. &amp; Anderson, M. (2011) Techniques and Principles in Language Teaching (3rd, ed.), Oxford: Oxford University Press</li> <li>・ 村野井仁 (2006) 「第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法」大修館書店</li> </ul>
評価方法・評価基準	毎回課されるReading Assignment (30%), 英語教育関連書籍のReview & Presentation (30%), レポート課題 (30%) 及び英語教育学会参加報告 (10%) 等に基づき, 総合的に評価を行う。
履修上の注意	特になし

講義科目名称：英米文学特論

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in British and American Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
浜川 仁			

授業のテーマ及び到達目標	英米文学の主要作品から名著を選び出して講読及び批評をすることで、英米の文化に対する批評的視野を養うことを目指す。
授業計画	<p>第1回 シラバスの説明及びスタインバック研究の意義</p> <p>第2回 英文学とアメリカ文学</p> <p>第3回 20世紀前半のアメリカの小説家：ヘミングウェイとフォークナー</p> <p>第4回 モダニスト作家とスタインバック：類似と相違</p> <p>第5回 『怒りのぶどう』：概論的講義</p> <p>第6回 テキスト講読 (1) 『怒りのぶどう』を読む</p> <p>第7回 テキスト講読 (2) 『怒りのぶどう』を読む</p> <p>第8回 テキスト講読 (3) 『怒りのぶどう』を読む</p> <p>第9回 批評文講読 (1) (配布資料を使用)</p> <p>第10回 批評文講読 (2) (配布資料を使用)</p> <p>第11回 テキスト講読 (4) 『チャーリーとの旅』を読む</p> <p>第12回 テキスト講読 (5) 『チャーリーとの旅』を読む；レポートのトピックについて</p> <p>第13回 テキスト講読 (5) 『チャーリーとの旅』を読む；レポートのトピックと概要提出</p> <p>第14回 批評文講読(3) (配布資料を使用)</p> <p>第15回 研究発表会； レポート提出</p>
授業の概要	英米文学の主要作品からテキストを精選し、講読・批評をしていく中で英米の文化に焦点を当てた概論的講義をする。この特論ではジョン・スタインバックの小説を取り上げ、同時代の作家たちと比較しながら、スタインバック小説の特質を議論する。小説に加えてノンフィクションを併用することで究極的には作家・作品研究へ繋げていく。
予習	<講義計画>第6回から第14回までの講義は、指定された頁及び配布資料を事前に読んでおくこと。
復習	各講義の際に配布されるレジユメをよく読み、講義の内容を理解・整理すること。
テキスト	-
参考書	-
評価方法・評価基準	授業内レポートの評価： 30 % 研究発表会の評価： 20 % レポートの評価： 50% (内容50%；形式：20%；文章力：30%)
履修上の注意	特になし

講義科目名称：英語教育学特論Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in English Education Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	領域コア科目(英語教育領域)
担当教員			
未定			

授業のテーマ及び到達目標	This course is follow-on of discussions taken up in英語教育学特論Ⅰ where the goal is to further develop a critical awareness of knowledge as a social and institutional construction and what this means to the development of the English language learner within communities and societies across the world.
授業計画	<p>第1回 Hegemony theory in education</p> <p>第2回 Antonio Gramsci</p> <p>第3回 Cultural Imperialism in the classroom</p> <p>第4回 Herbert Schiller</p> <p>第5回 Gender and Language in the classroom</p> <p>第6回 Deborah Cameron</p> <p>第7回 George Lakoff</p> <p>第8回 Language: The Loaded Weapon</p> <p>第9回 Dwight Bollinger</p> <p>第10回 Student-led discussion of two high stakes tests</p> <p>第11回 Student-led discussion of case studies in test ethics</p> <p>第12回 Student-led discussion of language testing research reports</p> <p>第13回 Student-led discussion of a large scale testing project</p> <p>第14回 Student-led discussion of the impact of technology on language testing</p> <p>第15回 Summing up</p>
授業の概要	This course introduces students to theories of knowledge, practices of knowledge generation, and their connections to free and democratic societies. Students are asked to think and write critically about the topics and to contemplate their impact on English language teaching in Japan.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	There is no textbook but teacher-prepared readings will be used.
参考書	-
評価方法・評価基準	(授業参加 = 1/3   準備 = 1/3   発表 = 1/3) Students will be evaluated on the quality of their responses to the discussion questions at the end of each class, their ability to research the subject they are assigned, and quality of their presentations.
履修上の注意	特になし

講義科目名称：国際関係特論

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in International Relations

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
新垣 誠			

授業のテーマ及び到達目標	<p>講義のテーマは「グローバリゼーション」。産業革命以来、私たちの生活や他者との関わり方、そして国際社会のあり方を大きく変えてきたこの現象を学際的視座から多角的に捉え、その力学を歴史、政治、経済、文化の側面から分析できる力をつける。</p> <p>知識理解：グローバル化を説明できる。</p> <p>思考判断：国際社会の仕組みを指摘できる。</p> <p>関心意欲：国際情勢に興味を持てる。</p> <p>態度：理論的思考と分析力を持つ。</p>
授業計画	<p>第1回 グローバリゼーションと国際社会：概観</p> <p>第2回 貧困、紛争、環境：国際社会の抱える課題と取組み、その歴史と現状</p> <p>第3回 開発教育と「地球市民」という概念</p> <p>第4回 人口移動とアイデンティティの多様化</p> <p>第5回 人権問題、ジェンダー・ジャスティス</p> <p>第6回 新植民地主義とエスニック・民族紛争</p> <p>第7回 宗教紛争と国際テロリズム</p> <p>第8回 トランスナショナルな社会形態と新たなナショナリズムの台頭</p> <p>第9回 NGO・NPO：新たな社会変革への始動</p> <p>第10回 環境問題と国際社会</p> <p>第11回 世界の貧困と「ミレニアム開発目標」</p> <p>第12回 軍事主義と国際社会</p> <p>第13回 グローバリゼーションと沖縄</p> <p>第14回 プレゼンテーションとディスカッション</p> <p>第15回 プレゼンテーションとディスカッション</p>
授業の概要	<p>本講義では、激しく流動化する現在の国際関係を、「グローバルゼーション」というキーワードを基に読み解く。近代国家の枠組みを超えて生じる地球環境問題や、自由市場経済と多国籍企業のあり方、難民や国際テロリズムの問題など、21世紀における新たな世界情勢を捉える視点について考える。また、理論的枠組みに加え、アジアや沖縄など特定の地域に焦点を絞り、それぞれの地域がお互いにどう関係し合っているのかを、具体的に学ぶ。</p>
予習	<p>毎講義で提示される内容を各自調べ、ディスカッションへ備える。</p>
復習	<p>講義内容について不明な点は各自で調べ、次回の講義で確認すること。</p>
テキスト	<p>講義に必要な文献、資料および教材は担当者が準備します。</p>
参考書	<p>-</p>
評価方法・評価基準	<p>授業やディスカッションへの参加、課題やリサーチペーパーをもとに総合的に評価します。（講義内容に関連するテーマをもとに、リサーチペーパーの提出を義務づけます）</p> <p>小テスト・授業内レポート：30% 授業態度：20% 受講者の発表：30% 授業への参加度：20%</p>
履修上の注意	<p>特になし</p>

講義科目名称：国際ボランティア学特論

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in International Volunteering

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
未定			

授業のテーマ及び到達目標	「国際ボランティア論」は、実学であり活学です。この講義では、国際ボランティア活動を取り巻くグローバルな現象、そして実践面に関する基本的な理解をめざします。国際ボランティアのイメージと実像の違いは？なぜ今、国際ボランティアなのか？このようなことを、この講義で一緒に考えてみましょう。
授業計画	<p>第1回 講義の概要と計画／国際ボランティア論への招待</p> <p>第2回 「国際ボランティア」の定義／グローバリゼーション</p> <p>第3回 開発援助</p> <p>第4回 NGO</p> <p>第5回 貧困：世界の半分が飢えるのはなぜか？</p> <p>第6回 女性・ジェンダー</p> <p>第7回 人間の安全保障と平和構築</p> <p>第8回 地球環境</p> <p>第9回 国際連合ボランティア</p> <p>第10回 JICA海外青年協力隊</p> <p>第11回 NGO活動への参加</p> <p>第12回 異文化コミュニケーションの諸相と安全面</p> <p>第13回 補論：国際公務員（国連機関職員）</p> <p>第14回 ケーススタディー：難民問題</p> <p>第15回 国際ボランティアの未来／補足とまとめ</p>
授業の概要	地球規模で取り組まなければならない課題に、解決の途は開かれるのでしょうか？開発途上国とよばれる国々では、現在でも多くの人々が、紛争、飢餓、環境破壊、人権侵害といった危機に瀕しています。戦後、先進国政府や国際連合の機関が中心となり、このような問題に取り組んできましたが、公的次元での援助の弊害や矛盾も指摘されています。このような背景から、近年、国際ボランティアに注目が集まっています。この講義では、グローバル化や開発援助の文脈に国際ボランティアを位置づけ、国際ボランティア活動やプログラムの内容・課題について考えます。
予習	毎講義で提示される内容を各自調べ、ディスカッションへ備える。
復習	講義内容について不明な点は各自で調べ、次回の講義で確認すること。
テキスト	試用しません。授業時に、レジュメと資料を配布します。
参考書	内容に応じて授業毎に紹介します。
評価方法・評価基準	レポート（70%）、授業への参加度（30%）
履修上の注意	特になし

講義科目名称：国際開発特論

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in International Development

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
未定			

授業のテーマ及び到達目標	国際開発協力の全体像と潮流をつかみ、今後の国際開発援助あり方を考える時に必要な眼を養うことが、この講義の目標です。この講義は、理論と実践を架橋しながらすすめます。受講後、皆さんが、現地の人々やフィールドにいる専門家たちに思いを馳せるようになることを願っています。
授業計画	<p>第1回 講義の概要と計画／国際開発とは何か？</p> <p>第2回 安全保障政策としての開発援助</p> <p>第3回 近代化論の破綻と構造調整プログラム</p> <p>第4回 開発援助と人道援助の機能的連結</p> <p>第5回 持続可能な発展</p> <p>第6回 グッド・ガバナンスと人間の安全保障</p> <p>第7回 紛争と平和構築</p> <p>第8回 貧困</p> <p>第9回 女性・ジェンダー</p> <p>第10回 「開発暴力」と強制移民</p> <p>第11回 開発と地球環境</p> <p>第12回 日本のODA</p> <p>第13回 国際機構とNGO</p> <p>第14回 国際開発協力の未来</p> <p>第15回 補足とまとめ</p>
授業の概要	21世紀にはいっても、紛争、飢餓、環境破壊、人権侵害といった途上国問題が解決される兆しはありません。戦後、国際開発協力の中心は先進国政府や国連機関でしたが、これからアクターは常に、国際政治と人道主義という二つの要素とその変動に左右されてきました。本講義では、これらを踏まえ、近代化論、ベーシック・ヒューマン・ニーズ戦略、持続可能な発展論、グッド・ガバナンス論といった国際開発思想とその実践、問題点について考察します。次に、これからの国際開発協力のあり方について考えます。
予習	講義内容について不明な点は各自で調べ、次回の講義で確認すること。
復習	講義内容について不明な点は各自で調べ、次回の講義で確認すること。
テキスト	試用しません。授業時に、レジユメと資料を配布します。
参考書	内容に応じて授業毎に紹介します。
評価方法・評価基準	レポート(70%)、授業への参加度(30%)
履修上の注意	特になし

講義科目名称：地域研究特論

授業コード：

英文科目名称：Okinawan Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
Anthony P. Jenkins			

授業のテーマ及び到達目標	This course is taught in English with the aim of improving the students' ability to absorb academic information in that language. It also aims to present a great deal of information on a narrow but formative period in recent Okinawan history.		
授業計画	第1回	Introduction: Okinawan Studies; outline of Okinawan history to WWII	
	第2回	Battle of Okinawa, the US experience and the Okinawan experience documentary source: the Okinawan internment camp at Shimabuku.	
	第3回	Post-war Okinawa, the US occupation and its governmental institutions; documentary source: Ordinance 13 establishing the GRI	
	第4回	Post-war Okinawa, Okinawan and Ryukyuan governmental institutions; documentary sources: various memoranda between the two sides of government	
	第5回	Post-war Okinawa: the land seizures; documentary source: petition from land owners at Bolo and related documents	
	第6回	Post-war Okinawa: crimes and incidents, 1945-72 documentary source: statements on petitions relating to two fatal road accidents	
	第7回	Post-war Okinawa: notable Americans (Deputy Governors and High Commissioners case studies: Eagles, Sheetz and Caraway	
	第8回	Post-war Okinawa: notable Okinawans (chiji and chief executives, Senaga Kamejiro and Inamine Ichiro); documentary sources: Yara Chobyō and the flag-raising campaign.	
	第9回	Post-war Okinawa: aspects of the reversion movement	
	第10回	Post-reversion, the six chiji, their policies and achievements	
	第11回	Education, 1879 to 21st century documentary sources: scholarship withdrawal from Communist sympathisers	
	第12回	American attitudes to Okinawa documentary source: New York Times and Time article 1952	
	第13回	Brief outlines of Okinawan cultural achievements 1 (lacquer, ceramics, textiles, Ryukyu glass, and the Arts and Crafts movement in Okinawa)	
	第14回	Brief outlines of Okinawan cultural achievements 2 (karate, eisa, dance and kumiodori)	
	第15回	Sekai isan: World Heritage sites in Okinawa	
	第16回	定期試験	
授業の概要	The primary focuses of this course are a detailed study of post-war Okinawa and the reading and use of primary sources in interpreting that era. Thereafter, there will be a brief, general survey of some of the remarkable cultural creativity which has defined Ryukyu and Okinawa in a worldwide context. The approach to those themes will include a range of challenges to accepted views and myths which are current in Okinawan society.		
予習	Please read the sections on Meiji and pre-war Okinawa in Kerr' s book cited below.		
復習	Please read the sections on Meiji and pre-war Okinawa in Kerr' s book cited below.		
テキスト	Lecture texts, and documentary sources beyond those outlined above will be distributed at the beginning of the course.		

参考書	G.H. Kerr, Okinawa: The History of an Island People (Tuttle, 1958) and a list of some 20 other important English-language publications will be distributed in the first class.
評価方法・評価基準	Preparation for class 15%, regular attendance in class 15%, participation in discussion 20%, essay of approved theme 50%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：社会言語学特論

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in Sociolinguistics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
宮平 勝行			

授業のテーマ及び到達目標	本講座では、ことばを社会的行為としてとらえ、異文化コミュニケーションの文脈でことばがどのような機能をはたすのかを考察する。ことばと文化の関係を論じた古典的な論考にまず親しみ、ことばに注目した代表的な異文化コミュニケーション理論を概観した上で、様々な言語コミュニティにおけることばの多様性とその社会・文化的意味と機能について考察する。その上で、異文化コミュニケーションという相互行為の連鎖のプロセスを分析し、相互行為を経て産出される意味の共有や異文化性について考える。ことばの多様な役割を理解し、共同体の制度と社会、そして文化と深く結びついているコミュニケーション行為の固有性と普遍性を理解するのが本講座の目標である。
授業計画	<p>第1回 講義内容紹介、「ことばと文化について」</p> <p>第2回 Nibett: Is the world made up of nouns or verbs?</p> <p>第3回 Smovar, et. al.: Hofstede's value dimensions and Hall's high context/low context</p> <p>第4回 Scollon &amp; Scollon: Interpersonal politeness and power</p> <p>第5回 Ide: How and why honorifics can signify dignity and elegance</p> <p>第6回 Goddard &amp; Wierzbicka: Cultural scripts</p> <p>第7回 Blum-Kulka &amp; Olshtain: Requests and apologies</p> <p>第8回 Katriel: The Dugri ritual</p> <p>第9回 Holliday: Small culture</p> <p>第10回 Kasper &amp; Rose: Developmental patterns in second language pragmatics</p> <p>第11回 Mauranen: Signaling and preventing misunderstanding in English as lingua franca communication</p> <p>第12回 Sarangi: Intercultural or not? Beyond celebration of cultural differences in miscommunication analysis</p> <p>第13回 Nishizaka: The interactive constitution of interculturality</p> <p>第14回 Higgins: Constructing membership in the in-group</p> <p>第15回 Clyne, et. al.: Intercultural communication at work in Australia</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	社会言語学に加えて談話研究、コミュニケーション研究の領域でことばとコミュニケーション行為の固有性を論じた英語の文献を事前に読み、ゼミ形式で質疑応答と批判的読解訓練を重ねる。様々な言語共同体における事例研究を踏まえて、現在国内で見られる異文化コミュニケーションに当てはめてディスカッションを行う。
予習	各授業に出る前に論文を精読する。割り当てられた日の口頭レポートに必要な発表資料を準備する。
復習	講師の説明やクラス・ディスカッションを経て得られた知識を論文要旨として自分なりにまとめる。
テキスト	1 Zhu, Hua. (Ed.). (2011). The language and intercultural communication reader. London: Routledge. 2 その他、ハンドアウトを利用する。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	読解レポート：20 points      口頭発表：20 points 学期末ペーパー：40 points      授業活動への貢献度：20 points      合計：100points
履修上の注意	1. 授業活動への貢献度は、授業中の発言を通してどれだけクラス全体の知識の向上に貢献したかで主に判断します。

2. リーディング・アサインメントは指定された講義の日までには読み、授業中は発表とクラス・ディスカッションに当てること。  
授業中に辞書を引くことはしない。

3. 学期中1/3以上（5回）授業を欠席した場合は、学則に従い自動的に不可となります。

4. 質問や相談したいことがある場合は、できるだけ下記のオフィス・アワーを利用してください。都合の悪い場合は電話かEメールでアポイントメントをとることもできます。研究室は琉大内の共通教育棟3号館3-111になります。

オフィスアワー：火 16:20-17:50 ; 木10:20-11:50 連絡先： 098-895-8303 電子メール：  
miyahira@L.u-ryukyu.ac.jp

講義科目名称：国際理解教育特論

授業コード：

英文科目名称：Global Issues in Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
新垣 誠			

授業のテーマ及び到達目標	This course is designed to help students learn about other cultures and global issues and how to introduce these cultures and issues to others. Considerable attention will be given to global issues in the teaching of English in Okinawa and Japan.		
授業計画	第1回	Registration and Course Introduction	
	第2回	Defining Key Terms	
	第3回	Language in Global Society	
	第4回	Language, Culture and Identity	
	第5回	English as an International Language (EIL)	
	第6回	English Education in the World	
	第7回	EIL in Japan	
	第8回	EIL in Okinawa	
	第9回	Teaching EIL	
	第10回	Global Issues and Education	
	第11回	Global Issues and EIL	
	第12回	Public Discourse and Social Inequity	
	第13回	Teaching Culture in the English Classroom	
	第14回	Education and the Reproduction of Inequality	
	第15回	Comments on Research Papers	
授業の概要	Students should note that this class will be conducted primarily in English but can also be given in Japanese. They should also note that the readings will largely be in English and the research paper should be submitted in English. In addition to lectures, readings, and discussions, the class will utilize individual research and presentations to give students practical experience in understanding and helping others understand global issues.		
予習	毎講義で提示される内容を各自調べ、ディスカッションへ備える。		
復習	講義内容について不明な点は各自で調べ、次回の講義で確認すること。		
テキスト	Raymond Williams selected readings, Paulo Freire selected readings, James Gee selected readings		
参考書	担当者作成の資料を適宜配布		
評価方法・評価基準	class participation, homework assignments and presentations (50%) course research paper (50%)		
履修上の注意	特になし		

講義科目名称：非言語コミュニケーション学特論

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in Non-Verbal Communication

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
兼本 円			

授業のテーマ及び到達目標	1. コミュニケーション中に見られる言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの関係を知ること。 2. 非言語コミュニケーションの仕組みを知ること。 3. 非言語コミュニケーションに関する基礎的フィールドワークに取り組めること。
授業計画	<p>第1回 コミュニケーション学の紹介</p> <p>第2回 日常における言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの関係</p> <p>第3回 理解と誤解について、教科書1章</p> <p>第4回 教科書2章</p> <p>第5回 教科書3章</p> <p>第6回 教科書4章</p> <p>第7回 教科書5章</p> <p>第8回 まとめ(中間)</p> <p>第9回 まとめ(中間)</p> <p>第10回 フィールドワークの説明</p> <p>第11回 フィールドワークの発表、ディスカッション</p> <p>第12回 フィールドワークの発表、ディスカッション</p> <p>第13回 フィールドワークの発表、ディスカッション</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 フィードバック</p>
授業の概要	日本人同士のコミュニケーション及び異文化間のコミュニケーションに生じる非言語コミュニケーション行動を概観する。さらに、様々な場面でのコミュニケーション映像データを基に、コミュニケーションの破綻、誤解、理解等のプロセスを非言語コミュニケーションの観点から分析して、より良い同一文化内及び異文化間コミュニケーションのモデルを構築する。その際に非言語コミュニケーションの要素として、対人間距離、視線、表情、接触学的要素、対物学要素などを分析の対象とする。
予習	毎講義で提示される内容を各自調べ、ディスカッションへ備える。
復習	講義内容について不明な点は各自で調べ、次回の講義で確認すること。
テキスト	喜多壮太郎 『ジェスチャー、考えるからだ』 金子書房 2,000円
参考書	1. Martin S. Reiland, Nonverbal Communication in Everyday Life, Houghton Mifflin 2. 教員が用いる視聴覚データ
評価方法・評価基準	試験(中間・期末試験) : 60% 小テスト・授業内レポート : 20% 授業態度 : 10% 受講者の発表 : 10%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：同時通訳・逐次通訳実践

授業コード：

英文科目名称：Practicum in Interpretation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(1-1)	共通関連科目
担当教員			
A. David Ulvog			

授業のテーマ及び到達目標	より完成度の高い同時通訳・逐次通訳を目指す。逐次通訳においては、人前に立って通訳が出来るようになる事を目標とする。同時通訳においては、日・英両言語が綺麗に発音できる事、ニュース番組の同時通訳が出来るようになる事を目標とする。		
授業計画	第1回	逐次通訳訓練、式典スピーチなどのメモ取り	
	第2回	逐次通訳訓練、式典スピーチなどのメモ取り、通訳	
	第3回	逐次通訳訓練、式典スピーチなどのメモとり、通訳、トータル・パフォーマンス（英語、日本語のイントネーション指導）	
	第4回	逐次通訳テスト：トータル・パフォーマンス	
	第5回	同時通訳訓練、CNN、NHKなどの2カ国語番組テープで日・英両語のシャドウイングモデルについて発音、イントネーションを徹底して訓練する。	
	第6回	同時通訳訓練、CNN、NHKなどの2カ国語番組テープで日・英両語のシャドウイングモデルについて発音、イントネーションを徹底して訓練する。	
	第7回	同時通訳訓練、教材に使用されている単語、句、定型表現等を同時通訳の1技術クイック・レスポンスを用いて英・日両言語への即座の反応を訓練する。	
	第8回	同時通訳訓練、クイック・レスポンス。教材と関連するジャーナル(日・英両語)を背景知識の構築練習として丁寧に読み、単語、句、特殊表現、専門用語に慣れ親しむ。	
	第9回	同時通訳訓練、クイック・レスポンス。教材と関連するジャーナル(日・英両語)を背景知識の構築練習として丁寧に読み、単語、句、特殊表現、専門用語に慣れ親しむ。	
	第10回	同時通訳訓練、クイック・レスポンス。教材と関連するジャーナル(日・英両語)を背景知識の構築練習として丁寧に読み、単語、句、特殊表現、専門用語に慣れ親しむ。	
	第11回	同時通訳テスト：LL教室。レシーバーを通して聞くことばを同時通訳する。	
	第12回	同時通訳テスト：LL教室。レシーバーを通して聞くことばを同時通訳する。	
	第13回	同時通訳実践：学内で開催される講演、礼拝等の同時通訳。（モニターされる）	
	第14回	同時通訳実践：学内で開催される講演、礼拝等の同時通訳。（モニターされる）	
	第15回	同時通訳実践：学内で開催される講演、礼拝等の同時通訳。（モニターされる）	
	第16回	総括	
授業の概要	本講義では、本学で行われる講演と月曜礼拝メッセージなどの通訳の実践に向けての訓練を行う。逐次通訳の訓練においては、トータル・パフォーマンスを軸に、メモを取り、姿勢、日本語のイントネーションに注目し、より完成度の高い通訳を目指す。同時通訳の訓練においては、日本語→英語の即時変換が出来るよう単語やフレーズのクイック・レスポンスの練習を徹底して行う。また、通訳上、予測能力をつけるためのシャドウイング、背景知識養成として新聞（日本語、英語）を課す。		
予習	毎回、次週の講義内容についての予告をおこなうので関連事項について調べ、基礎知識を身につけておくこと。		
復習	次回の講義との連続性を意識しながら事実関連の再確認をおこなうこと。		
テキスト	CNN、NHK等2カ国語ニュースをトランスクリプトしたもの、VTR、テープ 雑誌：『CNN English』朝日出版（適宜使用） 『通訳翻訳ジャーナル』イカロス出版（適宜使用）		
参考書	Becoming a Translator, Douglas Robinson, Routledge, London and New York 中村保男・谷田貝常夫著 『英和翻訳表現辞典』研究社 松本 亨著 『これを英語で何というか？』英友社 小林淳夫著 『通訳の極意』南雲堂フェニックス		

	その他： 普通の辞典
評価方法・評価基準	<p>1) 第4回目： 逐次通訳のテストはトータル・パフォーマンスで評価する。  評価内容： ①メモが取れている ②通訳者のマナーが身についている  ③日・英のイントネーション ④訳の正確さ ⑤聴衆へのアピール</p> <p>2) 第11回目、12回目： レシーバーを通してのテスト。  評価内容： ①日・英シャドウイング（ニュース番組） ②日・英同時通訳（ニュース番組）</p> <p>3) 第13回目、14回目、15回目： 講演・礼拝等の同時通訳</p>
履修上の注意	特になし

講義科目名称：健康科学特論

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in Health Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
近藤 功行			

授業のテーマ及び到達目標	<p>沖縄の長寿が将来的に危ないとされている。「26ショック」から現在に至るなかで、沖縄における長寿の問題点は何か。それを探る視点は研究者が必要とする飽くなく探求心から生まれ出るセレンディピティの視点と類似している。つまり、連鎖した事象をほぐし解明していくことによって得る新知見の創出に他ならない。担当者の科学系論文における展開法や方法論を教示しつつ、地元沖縄の調査研究を中心に研究手法を身につけることをベースに、長寿科学研究を中心とした内容を概説して行く。</p>
授業計画	<p>第1回 厚生科学研究に携わった担当者の研究内容と現在に至る長寿科学の変化</p> <p>第2回 アメリカが抱える病巣を探る：心筋梗塞と肥満がもたらす功罪</p> <p>第3回 ファーストフードは、アメリカ社会の縮図と言えるのか</p> <p>第4回 患者医師関係のインフォームドコンセントに関わる日米比較研究から—国際日本文化研究センターにおける共同研究から—</p> <p>第5回 QOLの解釈の現状—アメリカから導入された学術用語の現在—</p> <p>第6回 「26ショック」を考える視点—沖縄の長寿はどうなるのか—</p> <p>第7回 ハンセン病医療医学を考える視点—ダミアン神父の功績を中心に— その1</p> <p>第8回 ハンセン病医療医学を考える視点—ダミアン神父の功績を中心に— その2</p> <p>第9回 終末期医療を考究する視点—欧米・北欧・オーストラリアの緩和ケアの現状から—①</p> <p>第10回 終末期医療を考究する視点—欧米・北欧・オーストラリアの緩和ケアの現状から—②</p> <p>第11回 寝たきり予防は自己管理で可能</p> <p>第12回 在宅死亡8割の島（自治体）の現状と本内容に関する最新版研究の紹介（その1）</p> <p>第13回 在宅死亡8割の島（自治体）の現状と本内容に関する最新版研究の紹介（その2）</p> <p>第14回 難病研究の現状</p> <p>第15回 まとめ—超長寿社会を見据える視点—</p> <p>第16回 試験に代わる課題説明&amp;総括</p>
授業の概要	<p>長寿社会を迎えた日本において、長寿県沖縄の抱える問題点、こころの健康、救急医療などの保健・医学的分野と共に、障害児・者にとって必要な就労などの福祉的分野についても教示する。超長寿者（センテナリアン）、高齢者、寝たきり予防、介護予防、難病といったテーマの現状分析、これまでの担当者の調査研究を通して得た新知見を紹介しつつ、現在に生きる人間に目を向ける研究内容を受講者に伝えることを目指す。</p>
予習	<p>毎回、資料配付を行います。それを元に、学習補助としてください。わかりにくいところを、質問する準備をしておいてください。</p>
復習	<p>この日の講義、また配布した講義資料で、わかりにくいところを見ておいてください。このあと、予習内容に移行します。</p>
テキスト	<p>必要な内容を毎時間プリント作成してきます。担当者が執筆中の書籍、論文の内容を随時紹介していくことで、最新版の研究に触れ教示をおこないます。</p>
参考書	<p>近藤功行（共著）：難病（X連鎖遺伝病・筋萎縮性側索硬化症・クロイツフェルトヤコブ病後縦靭帯骨化症・再生不良性貧血・ジストニア・シャイドレガー症候群・重症筋無力症・神経難病・進行性筋ジストロフィー・スモン・脊髄小脳変性症・突発性大腿骨壊死症・難病・パーキンソン病・パッドキアリ症候群・ハンセン病・ハンチントン病・ビュフガー病・ペーチェット病・ライソゾーム病）、難病特定疾患一覧、介護保険特定疾病病一覧）、福祉医療用語辞典（宮原伸二編著）、創元社、pp. 178 - pp. 186、2006          近藤功行（共著）：漢方、フーチーバー、鍼灸、民俗医療、薬草、薬用動物、ヤブー、沖縄民俗辞典、渡邊欣雄ほか編著、吉川弘文館、2008（印刷中）</p>

評価方法・評価基準	<p>履修人数が1名の場合も考えられるため、担当者の最新の研究を紹介することを中心に進めます。現在執筆中の校正原稿を提示するなどこういった研究紹介を教示することで、受講者はこれに対しての感想や意見を記述してもらいます。毎時間提示する教材に対しての感想記述や関連した質問に回答してもらいつつ、最終的な本講義課題としてこれまでの講義内容の視点をまとめて記述してもらうことなどから総合評価を出したいと考えます。</p> <p>試験：90% 参加度：10%</p>
履修上の注意	特になし

講義科目名称：死生学特論

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in Thanatology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
近藤 功行			

授業のテーマ及び到達目標	本講義は、社会事象の中で刻々と変化する生と死の内容に触れ、死生観を中心とした当該地域の人々が持つ伝統的な考え方が学校教育を担う立場の側にとっても重要な内容であることを理解してもらう。とりわけ、学校教育の中で『死生学』を学ぶ取り組みの重要性について触れ、同時に大学と社会人の間でも同様な取り組みが必要なことを概説し、将来展望を受講者と共に学んでゆく。
授業計画	<p>第1回 アメリカ葬儀事情—ミネソタ州立大学葬儀学部ほか—</p> <p>第2回 アメリカ流葬送形態の特徴—エンバーミングの日本への移入</p> <p>第3回 欧米の葬送形態と日本の葬送業者が受けた影響—形成外科医のしごと</p> <p>第4回 欧米・オーストラリアの緩和ケア医療の現状と日本の現状について</p> <p>第5回 樹木葬、空中葬、宇宙葬、音楽葬、生前葬などを通してみる日本人の死生観の変化</p> <p>第6回 学校教育で『死生学』を学ぶ視点を考える—小学校教育において—</p> <p>第7回 学校教育で『死生学』を学ぶ視点を考える—中学校教育において—</p> <p>第8回 学校教育で『死生学』を学ぶ視点を考える—高等学校教育において—</p> <p>第9回 学校教育で『死生学』を学ぶ視点を考える—高等学校以上の教育において—</p> <p>第10回 学校教育で『死生学』を学ぶ視点を考える—社会人教育において—</p> <p>第11回 諸外国における『死生学』の教育を考究する視点</p> <p>第12回 生と死を学ぶこと</p> <p>第13回 日本人の死生観とインドネシア・バリ島の死生観</p> <p>第14回 墓地を通してみる死生観の変遷</p> <p>第15回 『死生学』を学ぶことの意義とは</p> <p>第16回 試験に代わる課題説明&amp;総括</p>
授業の概要	生と死を学ぶ取り組みが小学校から大学までの教育、あるいは社会人対象とした中で取り込まれてきている。生と死を学問的な見地から見つめながら、個々の研究の柱において生かして行く視点を教示する。自文化、異文化を通して見た死生観、遺体観、生命観、世界観などになどに関する担当者の調査研究から、ヒトの命をめぐるテーマを射程に入れ、考究を試みる。自宅死亡、終末期医療、終(つひ)などのテーマも考究する。
予習	毎回、資料配付を行います。それを元に、学習補助としてください。わかりにくいところを、質問する準備をしておいてください。
復習	この日の講義、また配布した講義資料で、わかりにくいところを見ておいてください。このあと、予習内容に移行します。
テキスト	担当者が必要な講義資料を毎時間プリントしてきます。
参考書	近藤功行：『学生教育・社会教育における『死生学(サナトロジー)』の担う役割について—その将来展望と基礎・学際的研究の試みから—』平成8年度川崎医療福祉大学プロジェクト研究費研究成果報告書、全388、1997 産経新聞大阪社会部：「死」の教科書～なぜ人を殺してはいけないか～、扶桑社新書020、2007(近藤功行：取材協力)
評価方法・評価基準	担当者は学部教育においてマスプロ教育を避ける上で、毎時間B4用紙1枚に感想を書いてもらい提出している。真ん中で折った左側に担当者が問いかけるいくつかの質問事項と、右側に講義の感想および「ここで一言」の欄を用いて、何某かの記述をしてもらっている。大学院教育においても、僅少数での講義となると考えられるが、このような感想用紙を作成し、毎時間提出をしてもらいたいと考えている。欠席時の感想は配布した講義資料を読んだ感想でかまわない。このように毎時間「事実(講義内容及び配付資料)+意見・感想」を書く作業を通すことと、試験にかわる課題として論述する内容を出し、総合した評価を出して行く。

	試 験：90% 参加度：10%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：キリスト教学特論

授業コード：

英文科目名称：Special Studies in Christianity

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
金 永秀			

授業のテーマ及び到達目標	聖書思想についての理解を深める。 世界人口の三分の二（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教）が聖書に基づく文化・価値観を形成している。聖書が世界に及ぼした文化や文明が及ぼした影響は大きい。その根幹をなす聖書思想をテキストにそってゼミ形式で、テキストを楽しみながら味わい、学ぶ。
授業計画	<p>第1回 講義の概要と進め方等の説明 NT 1～3</p> <p>第2回 NT 4～9</p> <p>第3回 NT 10～12</p> <p>第4回 NT 13～17</p> <p>第5回 NT 18～22</p> <p>第6回 NT 23～27</p> <p>第7回 NT 28～33</p> <p>第8回 NT 34～39</p> <p>第9回 NT 40～43</p> <p>第10回 NT 44～47</p> <p>第11回 NT 48～52</p> <p>第12回 NT 53～59</p> <p>第13回 NT 60～62</p> <p>第14回 NT 63～69</p> <p>第15回 NT 70～75</p>
授業の概要	<p>England became the people of a book, and that book was the Bible. とは、19世紀の英国の歴史家グリーン（J. R. Green）の名著A Short History of the English People（『英国民略史』1874, 改訂版1883）第8章に述べられている（テキスト, p. XX）。英語聖書は、欧米文化の精神的支柱に生活の中に深く浸透している。クラスでは、寺園芳雄のテキストに従って、最も古典的な英語聖書を学生の発表とコメントを加えながら読み進む。</p> <p>下記のテキストは、King James Bible (KJB)あるいは、Authorized Version (AV) から引用した名著から引用して執筆された名著である。</p>
予習	授業初めに提示されたスケジュールに合わせて準備をする。その他、必要教材（プリント等）必要に応じて、プリント・視聴覚教材を用いる。
復習	進展していく授業に合わせて、到達度を確認する。
テキスト	寺澤芳雄編著『名句で読む英語聖書—聖書と英語文化』研究者、2010、¥4000+税
参考書	各種聖書
評価方法・評価基準	課題レポート（50%）、発表（25%）、ディスカッション（25%）への貢献度等により、総合的に評価。
履修上の注意	特になし

講義科目名称：異文化コミュニケーション学特別演習 I

授業コード：

英文科目名称：Inter-Cultural Communication Thesis I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	4単位(2-0)	修士論文指導
担当教員			
近藤 功行			

授業のテーマ及び到達目標	<p>沖縄と他の地域の内容を概観することは、2つの文化を見ることにつながる。自文化においても、これまで暮らしていない地域に入ることに関しては異文化研究の視点をはらむことになる。そこから得る新知見が研究上重要な意味をもつ。これから研究に入る人達にこの新知見を得る方法を導き出すには多角的・重層的な視点や調査研究が必要であることを述べ、沖縄に関連した研究事例を概説する。</p>
授業計画	<p>第1回 100歳高齢者の氏名はなぜ公表されなくなったのか</p> <p>第2回 波照間島出身の高齢女性（97歳）の生活する場はどこか</p> <p>第3回 与論島出身の高齢者夫婦（85歳・84歳）は何故島で死ねなくなったのか</p> <p>第4回 「女性の開きは4歳、男性の開きは2歳」（全国）の意味する内容とは</p> <p>第5回 長寿の質としてのPPK(ピンピンコロリ)戦略（長野県）は果たして成功したのか</p> <p>第6回 沖縄県の長寿の質は過去10年間で下落したのか</p> <p>第7回 沖縄県の特別養護老人ホームの充足率が全国1になった年の背景はなにか</p> <p>第8回 沖縄の伝統食、行事食はまだ守られるのか</p> <p>第9回 沖縄への移住はまだ続くのか—「リトル東京」八重山の投げかける問題点とは—</p> <p>第10回 沖縄のユタ・カミンチュ・サンジンソウは今後どうなるのか</p> <p>第11回 「姥捨て山」伝説の長野県は男性平均寿命が1位—長野に学べることは何か—</p> <p>第12回 沖縄の妖怪伝説の投げかけるものはなにか</p> <p>第13回 沖縄の精神科医療の現状はどうなっているのか</p> <p>第14回 沖縄の産婦人科医療の現状はどうなっているのか</p> <p>第15回 これまでの講義を振り返って（まとめ）</p> <p>第16回 試験に代わる課題説明&amp;総括</p>
授業の概要	<p>沖縄の人々がこれまで長寿でいられた背景には、人・環境・気候・社会文化的背景、等の連鎖があると考えられる。今日、自殺、長寿、健康等の要因については様々な要因が連鎖しており、この中身を紐解く必要がある。そのため、こういった沖縄の人と心・コミュニケーション研究のテーマ設定の方法や既存の論文を通して概観し、同時に、先行研究や研究手法を教示する。また、論文構想や論文の柱をつくるための教示を行う。（以下、授業計画に示した一部タイトル中の年齢は2007年12月現在のものである）</p>
予習	<p>毎回、資料配付を行います。それを元に、学習補助としてください。わかりにくいところを、質問する準備をしておいてください。</p>
復習	<p>この日の講義、また配布した講義資料で、わかりにくいところを見ておいてください。このあと、予習内容に移行します。</p>
テキスト	<p>担当者が必要な講義資料を毎時間プリントしてきます。</p>
参考書	<p>近藤功行(共著)：ライフロング・ソシオロジー、山本慶裕・元田州彦(編)、東海大学出版会、1991</p>
評価方法・評価基準	<p>毎時間講義に関する感想用紙を作成してきます。これに毎回記述してください。欠席した場合も、この感想用紙を提出してください。左側には講義を欠席しても書けるいくつかの質問があります。講義の感想は書けなくても配布資料の感想を書いてください。なお、講義終了時期には試験にかわる課題を出します。これらの記述や試験にかわる課題の状況を総合的に評価して評価します。</p> <p>試験：70% 参加度：30%</p>
履修上の注意	<p>特になし</p>

講義科目名称：異文化コミュニケーション学特別演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Inter-Cultural Communication Thesis Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	4単位(2-0)	修士論文指導
担当教員			
近藤 功行			

授業のテーマ及び到達目標	講義のはじめ5回では、日本や諸外国の生態系（生命科学）を通しての視点から異文化コミュニケーションを考究する。次の5回では、健康科学からの視点で異文化コミュニケーションを考究する。次に、医療福祉学からの視点での考究を通して概説することで、研究を行う上での柱の築き方を導き出しつつ研究手法の教示につなげる。
授業計画	<p>第1回 人間と生態系からみる視点—人種・宗教・言語・アイデンティティー—</p> <p>第2回 環境、ヒト、進化、自然からの視点</p> <p>第3回 地球温暖化問題がもたらす影響—ガラパゴス諸島・小笠原諸島ほかの生態系影響—</p> <p>第4回 人間と自然環境からみる視点</p> <p>第5回 ヒトはどのような進化を遂げようとしているのか</p> <p>第6回 音楽療法・イルカセラピー・癒し・ホテルとチャペルを通してみる視点</p> <p>第7回 医師と患者間関係にみる視点</p> <p>第8回 沖縄に勤務する薬剤師にみる視点—医療とコミュニケーション—</p> <p>第9回 異文化間看護の研究を通してみる視点</p> <p>第10回 肥満大国アメリカと健康、日本および諸外国の自殺を通してみる視点</p> <p>第11回 虐待・ホームレス・生活苦・貧困・姥捨て山伝説を通してみる視点</p> <p>第12回 世界の死亡原因：先進国と低開発国での違いを中心に</p> <p>第13回 緩和ケア医療の方向性を考える視点—岡山モデルは日本型ホスピスの先駆的存在か—</p> <p>第14回 精神障害者の雇用を考える視点</p> <p>第15回 これまでの講義を振り返って（まとめ）</p> <p>第16回 試験に代わる課題説明&amp;総括</p>
授業の概要	各自が研究しようとしている、環境文化系、環境コミュニケーション分野、医療とコミュニケーション、死生観などに関する諸テーマについて検討・助言を行い、修士論文を執筆するための学習支援を行う。後期は個別指導が必要な時期であり、執筆者がオリジナルなテーマ設定のもとに全体構成がなされているか、各章立てが結論に有機的にむすびついているか、といったことを念頭におき、論文完成を導くことを全面支援する。
予習	毎回、資料配付を行います。それを元に、学習補助としてください。わかりにくいところを、質問する準備をしておいてください。
復習	この日の講義、また配布した講義資料で、わかりにくいところを見ておいてください。このあと、予習内容に移行します。
テキスト	担当者が必要な講義資料を毎時間プリントしてきます。
参考書	近藤功行（共著）：介護福祉学習辞典（第2版）、中央法規出版、2007
評価方法・評価基準	毎時間講義に関する感想用紙を作成してきます。これに毎回記述してください。欠席した場合も、この感想用紙を提出してください。左側には講義を欠席しても書けるいくつかの質問があります。講義の感想は書けなくても配布資料の感想を書いてください。なお、講義終了時期には試験にかわる課題を出します。これらの記述や試験にかわる課題の状況を総合的に評価して評価します。 試験：70% 参加度：30%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：英語教育学特別演習 I

授業コード：

英文科目名称：English Education Thesis I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(0-2)	修士論文指導
担当教員			
Daniel Broudy			

授業のテーマ及び到達目標	In serving students who have entered the initial stages of thesis research, this course aims to present systematic approaches to thesis planning, research, and design.		
授業計画	第1回	<p>Lecture 1 introductions H01 Epistemology (definition) H02 Michael Polanyi's The Tacit Dimension (for reference purposes) H03 Ron Sanchez' "Tacit Knowledge" versus 'Explicit Knowledge' Approaches to Knowledge Management Practice" (for discussion) H O M E W O R K: readings: -Finish Ron Sanchez article</p>	
	第2回	<p>Lecture 2 -experiment "Nose Finding" (Test your Tacit Knowledge) discussion of readings -Focus on Tacit Knowledge Ron Sanchez -H04 Christopher Ingraham's "Smile if you want people to think you're smart" H O M E W O R K: readings: -Finish Christopher Ingraham article</p>	
	第3回	<p>Lecture 3 -H05 Knowledge Management Exercise discussion of exercise discussion of readings -Focus on Explicit Knowledge Ron Sanchez H O M E W O R K: readings: H06 Alice Sullivan's "Bourdieu and Education: How Useful is Bourdieu's Theory for Researchers?"</p>	
	第4回	<p>Lecture 4 H06 Cultural Capital (definition) discussion of readings H07 Cultural Capital Field Study H O M E W O R K: readings: finish Sullivan</p>	
	第5回	<p>Lecture 5 -discussion of results of H07 Cultural Capital Field Study -return to discussion of H06 Alice Sullivan's article H O M E W O R K: H010 Vygotsky ? Mind in Society</p>	
	第6回	<p>Lecture 6 -return to discussion of H06 Alice Sullivan's article -H08 List of Elites -H09 Standardization Process H O M E W O R K: H010 Vygotsky ? Mind in Society</p>	
	第7回	<p>Lecture 7 H011 Sociocultural Theory (definition) discussion of readings H010 Vygotsky ? Mind in Society H012 Student-led Discussions (Guidance) H O M E W O R K: readings: finish Vygotsky</p>	
	第8回	<p>Lecture 8 return to discussion of H010 Vygotsky ? Mind in Society finish Vygotsky ? Mind in Society H O M E W O R K: readings: H013 Representation &amp; Media</p>	
	第9回	<p>Lecture 9 H014 Representation (in Media) (definition) H013 Stuart Hall's Representation &amp; Media H O M E W O R K:</p>	

	<p>readings: finish Stuart Hall</p> <p>第10回 Lecture 10 return to discussion of H013 Stuart Hall' s Representation &amp; Media</p> <p>HOMEWORK: prepare for student-led discussions</p> <p>第11回 Dialogues 1 Student-led discussions for topics chosen in Weeks 1-2</p> <p>第12回 Dialogues 2 Student-led discussions for topics chosen in Weeks 3-4</p> <p>第13回 Dialogues 3 Student-led discussions for topics chosen in Weeks 4-5</p> <p>第14回 Dialogues 4 Student-led discussions for topics chosen in Weeks 6-7</p> <p>第15回 Dialogues 5 Student-led discussions for topics chosen in Weeks 8-10</p>
授業の概要	This course is a second-year core seminar that introduces research students to the systematic exploration of a chosen topic. Discussions include generating and organizing ideas, finalizing a researchable topic, reviewing literature, formulating research questions, claims, proposals, predictions, theses and hypotheses, exploring ethical implications of human research, thinking critically, and sourcing research materials.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Course materials/readings are supplied by the professor
参考書	Students can locate full copies of text excerpts in the library.
評価方法・評価基準	授業への参加 20%, 宿題 10%, 発表50%, 授業への定期的参加20% Students receive credit for participating in, leading discussions, and producing an annotated bibliography at the end of the semester.
履修上の注意	特になし

講義科目名称：英語教育学特別演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：English Education Thesis Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	修士論文指導
担当教員			
Daniel Broudy			

授業のテーマ及び到達目標	In serving students who have reached the final stages of graduate studies, this course aims to present systematic approaches to thesis production and publication.		
授業計画	第1回	Theories of Language L1 Development - 1 Discussions George Lakoff, Women, Fire and Dangerous Things HOMEWORK: George Lakoff, Metaphors We Live By Noam Chomsky, selected essays	
	第2回	Theories of Language L1 Development - 2 Discussions George Lakoff, Metaphor We Live By Noam Chomsky, selected essays HOMEWORK: Stephen Krashen, selected essays <a href="http://www.sdkrashen.com/">http://www.sdkrashen.com/</a>	
	第3回	Theories of Language L2 Development - 1 Discussions Krashen <a href="http://www.sdkrashen.com/content/articles/2016_the_potential_of_technology_in_language_acquisition.pdf">http://www.sdkrashen.com/content/articles/2016_the_potential_of_technology_in_language_acquisition.pdf</a> <a href="http://www.sdkrashen.com/content/articles/2005_junk_food_is_bad_for_you.pdf">http://www.sdkrashen.com/content/articles/2005_junk_food_is_bad_for_you.pdf</a> HOMEWORK: <a href="http://www.sdkrashen.com/content/articles/1965_sipay_prenatal_instruction.pdf">http://www.sdkrashen.com/content/articles/1965_sipay_prenatal_instruction.pdf</a>	
	第4回	Theories of Language L2 Development - 2 Discussions Sipay <a href="http://www.sdkrashen.com/content/articles/1965_sipay_prenatal_instruction.pdf">http://www.sdkrashen.com/content/articles/1965_sipay_prenatal_instruction.pdf</a> HOMEWORK: Krashen - Input Hypothesis <a href="http://www.sdkrashen.com/content/articles/1989_we_acquire_vocabulary_and_spelling_by_reading.pdf">http://www.sdkrashen.com/content/articles/1989_we_acquire_vocabulary_and_spelling_by_reading.pdf</a>	
	第5回	Theories of Language L2 Development - 3 Discussions Krashen - Input Hypothesis <a href="http://www.sdkrashen.com/content/articles/1989_we_acquire_vocabulary_and_spelling_by_reading.pdf">http://www.sdkrashen.com/content/articles/1989_we_acquire_vocabulary_and_spelling_by_reading.pdf</a> HOMEWORK: Krahen - Comprehension Hypothesis <a href="http://www.sdkrashen.com/content/articles/2004_applying_the_comprehension_hypothesis_krashen.pdf">http://www.sdkrashen.com/content/articles/2004_applying_the_comprehension_hypothesis_krashen.pdf</a>	
	第6回	Theories and Practices of Oral Assessment - 1 Discussions Deborah Cameron, Verbal Hygiene HOMEWORK: Dwight Bolinger, Language the Loaded Weapon	
	第7回	Theories and Practices of Oral Assessment - 2 Discussions Dwight Bolinger, Language the Loaded Weapon HOMEWORK: Suresh Canagarajah, Resisting Linguistic Imperialism	
	第8回	Theories and Practices of Oral Assessment - 3 Discussions Suresh Canagarajah, Resisting Linguistic Imperialism HOMEWORK: Bernard Spolsky, Language Policy	
	第9回	Theories and Practices of Oral Assessment - 4 Discussions Bernard Spolsky, Language Policy HOMEWORK: James Crawford, At War with Diversity	
	第10回	Theories and Practices of Oral Assessment - 5 Discussions James Crawford, At War with Diversity HOMEWORK: Prepare for student-led discussions	
	第11回	Dialogues 1	

	<p>Student-led discussions Choose a topic to present and discuss from Weeks 1-2</p> <p>第1 2回 Dialogues 2 Student-led discussions Choose a topic to present and discuss from Weeks 3-4</p> <p>第1 3回 Dialogues 3 Student-led discussions Choose a topic to present and discuss from Weeks 5-6</p> <p>第1 4回 Dialogues 4 Student-led discussions Choose a topic to present and discuss from Weeks 7-8</p> <p>第1 5回 Dialogues 5 Student-led discussions Choose a topic to present and discuss from Weeks 9-10</p>
授業の概要	This course second-year core seminar that continues discussions of preliminary research methods, deductive and inductive approaches, definitions of key concepts and words, theoretical frameworks, questionnaires, observations, and interviews. Students receive credit for participating in, leading discussions, submitting a completed thesis outline, and presenting the results of the course literature review at the end of the semester.
予習	Students can pre pare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Course materials/readings are supplied by the professor
参考書	Students can locate full copies of all excerpts from texts in the library.
評価方法・評価基準	授業への参加 20%, 宿題 10%, 発表50%, 授業への定期的参加20% Students receive credit for participating in, leading discussions, and producing an annotated bibliography at the end of the semester.
履修上の注意	特になし

講義科目名称：グローバルゼーション特論

授業コード：

英文科目名称：Stages of Globalization

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
C. Douglas Lummis			

授業のテーマ及び到達目標	<p>“Globalization” is one of the most recent names for a process that has been continuing at least since 1492. In this seminar we will place less emphasis on its most recent stage than on its earlier history. This is because it is not possible to grasp the nature of what is now called “globalization” without understanding that history. Of course, it will be impossible fully to understand this immensely complex process in a single semester, but we can begin. For convenience I have divided the process into five stages, or phases. Of course, this is far too simple (there are no clear boundaries between the five), but it will at least allow us to put some order into our reading.</p>
授業計画	<p>第1回 General introduction, Conquest</p> <p>第2回 Kirkpatrick Sale, Columbus and the Conquest of Paradise</p> <p>第3回 Bartholome de las Casas, A Short Account of the Destruction of the Indies (selections) The library has his longer work in translation: ラス/カサス『インディアス史』1-5。</p> <p>第4回 Lummis, 「強制労働としての経済発展」 (配布)</p> <p>第5回 Slavery, Encyclopedia of the Social Sciences 1931, “Forced Labor” (配布)</p> <p>第6回 E. ウィリアムズ 『コロンブスからカストロまで』</p> <p>第7回 Colonialism / Empire, as seen by the aristocrat: Macauley’s “Minute upon Indian Education” (配布)</p> <p>第8回 As seen by the liberal: J.S. Mill: “A Note on Intervention” (配布)</p> <p>第9回 As seen by Karl Marx: “British Rule in India” (配布)</p> <p>第10回 Development / Neo-Colonialism, as seen by the colonised: Franz Fanon, Black Skin, White Masks ファノン「黒い皮膚、白い仮面」</p> <p>第11回 C.E. Black, The Dynamics of Modernization Ch. 1 (配布)</p> <p>第12回 C. Douglas Lummis, “American Modernization Theory as Ideology” (配布)</p> <p>第13回 Globalization / Post-colonialism, Wolfgang Sachs, The Development Dictionary, (selections) (配布)</p> <p>第14回 Ania Loomba, Colonialism/Postcolonialism 「アーニア・ルーンバ『ポストコロニアル理論入門』(selections)</p> <p>第15回 Chalmers Johnson, The Sorrows of Empire『アメリカ帝国の悲劇』(selections)</p> <p>第16回 Discussion</p>
授業の概要	<p>This course is divided into five major areas. We will have examine theories and practices of globalization as well as early historical concepts and how these ideas relate to and/or reinforce applications in the contemporary social world.</p>
予習	<p>Students are expected to read each selection before the class discussion.</p>
復習	<p>It would be a good idea to reread each selection after the discussion.</p>
テキスト	<p>See the above.</p>
参考書	<p>This reading list is flexible. We may add or drop readings depending on how rapidly we proceed and on where the conversation leads.</p>

評価方法・評価基準	Evaluation will be based on class discussion. 授業態度：50% 発表表：25% 参加度：25%
履修上の注意	特になし

講義科目名称 : Research Project in Social Sciences I

授業コード :

英文科目名称 : Research Project in Social Sciences I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			

授業のテーマ及び到達目標	In serving students who are continuing their studies in research design, this course aims to extend critical discussions of the systematic approaches available to students for their topics.		
授業計画	第1回	Dialogue 1 Introductions, free discussions lead by students about their topics, reasons for choosing the particular area for research	
	第2回	Dialogue 2 Teacher-led discussions - researchable topics, strategies for approaching a subject area and refining the topic in a tightly focused way HW: assigned readings	
	第3回	Dialogue 3 Teacher-led discussions - strategies for generating and organizing ideas, exercises in class HW: assigned readings	
	第4回	Dialogue 4 Teacher-led discussions - taking a stand on an issue, making claims, propositions, and predictions, exercise in class	
	第5回	Dialogue 5 Applied knowledge ? students apply knowledge from previous class to their own topic, developing in class a number of different theses HW: assigned readings	
	第6回	Dialogue 6 Critical readings selected for literature review, sourcing of materials (consultations with Principal Advisor outside class)	
	第7回	Dialogue 7 Teacher-led discussions - developing hypotheses (see Note 1)	
	第8回	Dialogue 8 Teacher-led discussions ? developing research questions (see Note 1)	
	第9回	Dialogue 9 Student-led discussions ? hypotheses and research questions	
	第10回	Dialogue 10 Teacher-led discussions ? quoting and paraphrasing (consult style guides)	
	第11回	Dialogue 11 Teacher-led discussions ? critical analysis of literature (students present to the professor key readings for critical discussions)	
	第12回	Dialogue 12 Teacher-led discussions ? critical analysis of literature (students present to the professor key readings for critical discussions)	
	第13回	Dialogue 13 Teacher-led discussions ? critical analysis of literature (students present to the professor key readings for critical discussions)	
	第14回	Dialogue 14 Student-led discussions of their reviews of literature	
	第15回	Dialogue 15 Student-led discussions of their reviews of literature (all students submit annotated bibliography)	
授業の概要	Research Project in the Social Sciences (REP600) is a first-year core seminar that introduces research students to the systematic exploration of a chosen topic. Discussions include generating and organizing ideas, selecting a researchable topic, reviewing literature, formulating research questions, claims, proposals, predictions, theses and hypotheses, exploring ethical implications of human research, thinking critically, and sourcing research materials. Students receive credit for participating in, leading discussions, and producing an annotated bibliography at the end of the semester.		
予習	Students can prepare for each successive class meeting by referring to the guidance given in all preceding classes throughout the semester.		
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.		
テキスト	Readings in this course are supplied by the teacher.		
参考書	Note 1: <a href="http://www.health.herts.ac.uk/immunology/Web%20programme%20-%20Researchhealthprofessionals/hypothesisresearch_question.htm">http://www.health.herts.ac.uk/immunology/Web%20programme%20-%20Researchhealthprofessionals/hypothesisresearch_question.htm</a>  <a href="http://labspace.open.ac.uk/file.php/2538!/via/oucontent/course/167/deh313_1blk4.15.pdf">http://labspace.open.ac.uk/file.php/2538!/via/oucontent/course/167/deh313_1blk4.15.pdf</a>		
評価方法・評価基準	Students receive credit for participating in, leading discussions, and producing an annotated bibliography at the end of the semester.		

	Participation 1/3、Leading discssions 1/3、Annotated bibliography 1/3
履修上の注意	特になし

講義科目名称 : Research Project in Social Sciences II

授業コード :

英文科目名称 : Research Project in Social Sciences II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			

授業のテーマ及び到達目標	In serving students who are continuing their studies in research design, this course aims to extend critical discussions of the systematic approaches available to students for their topics.
授業計画	<p>第1回 Dialogue 1 Introductions, student-led discussions about their progress HW: assigned readings</p> <p>第2回 Dialogue 2 Teacher-led discussions of qualitative approaches HW: assigned readings</p> <p>第3回 Dialogue 3 Teacher-led discussions of approaches in critical discourse analysis (CDA)</p> <p>第4回 Dialogue 4 Teacher-led discussions of theoretical frameworks HW: assigned readings</p> <p>第5回 Dialogue 5 Teacher-led discussions of theoretical frameworks (continued) HW: assigned readings</p> <p>第6回 Dialogue 6 Teacher-led discussions of inductive and deductive approaches to reason</p> <p>第7回 Dialogue 7 Teacher-led discussions of field notes and observations HW: assigned readings</p> <p>第8回 Dialogue 8 Teacher-led discussions of defining key words and concepts, in-class exercises</p> <p>第9回 Dialogue 9 Teacher-led discussions of questionnaire development HW: assigned readings</p> <p>第10回 Dialogue 10 Teacher-led discussions of developing interview questions HW: assigned readings</p> <p>第11回 Dialogue 11 Student-led discussions of their questionnaires and/or interview questions HW: assigned readings</p> <p>第12回 Dialogue 12 Student-led discussions of their literature review</p> <p>第13回 Dialogue 13 Student-led discussions of their literature review</p> <p>第14回 Dialogue 14 Student-led discussion of their research outline</p> <p>第15回 Dialogue 15 Student-led discussion of their research outline (Students submit outlines for assessment)</p>
授業の概要	(Prerequisite: REP600) REP601 is a first-year core seminar that continues discussions of preliminary research methods, deductive and inductive approaches, definitions of key concepts and words, theoretical frameworks, questionnaires, observations, and interviews. Students receive credit for participating in, leading discussions, submitting a completed thesis outline, and presenting the results of the course literature review at the end of the semester.
予習	Students can prepare for each successive class meeting by referring to the guidance given in meetings throughout the entire course.
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Readings in this course are supplied by the teacher.
参考書	All readings are supplied by the professor throughout the semester.
評価方法・評価基準	Students receive credit for participating in, leading discussions, and producing an annotated bibliography at the end of the semester. Participation 1/3, Leading discussions 1/3, Annotated bibliography 1/3
履修上の注意	特になし

講義科目名称 : Systems and Discourses of Social Inequality 授業コード :

英文科目名称 : Systems and Discourses of Social Inequality

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
C. Douglas Lummis			

授業のテーマ及び到達目標	—What we've got here is a failure of communication. (Paul Newman as 'Cool Hand Luke') We human beings are remarkable in our ability to communicate, but we are also remarkable in our ability to imagine we are communicating when we are not. Failures of communication can result from a variety of causes: differences of language, culture, ideology, worldview, experience and the like. In this seminar, I want to focus on a factor that is sometimes not noticed in communication studies: differences in power. Power differences can take many forms; here I propose to take up only a sample of some of the most obvious ones.		
授業計画	第1回	General Introduction	
	第2回	Uncoerced Communication? Plato, The Republic Book1(プラトン『国家』第一巻).	
	第3回	Plato, continued	
	第4回	Speech as action. Hanna F. Pitkin, "Wittgenstein's Two Visions of Language" (Wittgenstein and Justice, Ch.2).	
	第5回	Wittgenstein, continued.	
	第6回	Communication under Totalitarianism. George Orwell, 1984.	
	第7回	Orwell continued	
	第8回	Communication and politics. Orwell, "Politics and the English Language".	
	第9回	Hegemony. Gramsci, Prison Writings(selections).	
	第10回	Gramsci continued	
	第11回	Communication colonized. Franz Fanon, Black Skins, White Masks(『黒い皮膚、白い仮面』)。	
	第12回	Fanon, continued.	
	第13回	Communication colonized, continued. Rento Constantino, selected articles from Dissent and Counter Consciousness, etc.	
	第14回	Constantino, continued.	
	第15回	English Language Hegemony. C.D. Lummis, "English Language as Ideology" (「イデオロギーとしての英会話」)	
	第16回	Conclusion	
授業の概要	The seminar will be divided into two parts. In the Spring semester, we will be looking at a variety of situations in which unequal power distorts communication. As this sort of distortion is a common theme in fiction, we will look at some of the classic works that deal with that theme. In the Fall semester, we will focus more on some of the theoretical works that seek to explain how and why unequal power distorts communication. Of course, students may enrol in either of the two parts of the seminar without enrolling in the other.		
予習	Students are expected to read the assigned readings before each class.		
復習	It would be a good idea to reread these texts after the seminar discussion.		
テキスト	See the above.		
参考書	Most of these works are available in Japanese translation (I'm not sure about Macauley and Havel), and of course students may read them in whichever language they refer, as available. Class discussion will be in Japanese, English, or a combination of both, as seems appropriate.		

評価方法・評価基準	Grades will be based on class participation. 授業態度：50% 発表：25% 参加度：25%
履修上の注意	特になし

講義科目名称: Communication in Situations of Unequal Power 授業コード:

英文科目名称: Communication in Situations of Unequal Power

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	共通関連科目
担当教員			
C. Douglas Lummis			

授業のテーマ及び到達目標	—What we've got here is a failure of communication. (Paul Newman as 'Cool Hand Luke') We human beings are remarkable in our ability to communicate, but we are also remarkable in our ability to imagine we are communicating when we are not. Failures of communication can result from a variety of causes: differences of language, culture, ideology, worldview, experience and the like. In this seminar, I want to focus on a factor that is sometimes not noticed in communication studies: differences in power. Power differences can take many forms; here I propose to take up only a sample of some of the most obvious ones.		
授業計画	第1回	General Introduction	
	第2回	Communication in class society. James Barrie, The Admirable Crichton	
	第3回	Communication distorted by gender. James Barrie, The Twelve Pound Look	
	第4回	Communication distorted by gender, continued. Henrik Ibsen, A Doll's House	
	第5回	Communication under slavery. Frederick Douglass, Narrative of the Life of Frederick Douglass, an American Slave	
	第6回	Communication under slavery. Frederick Douglass, Narrative of the Life of Frederick Douglass, an American Slave	
	第7回	Communication under slavery, continued. Herman Melville, Benito Cereno	
	第8回	Communication under slavery, continued. Herman Melville, Benito Cereno	
	第9回	Communication under slavery, continued. Harriet Beecher Stowe, Uncle Tom's Cabin	
	第10回	Communication under colonization - theoretical interlude Albert Memmi, The Colonizer and the Colonized	
	第11回	Communication under colonization, continued The Colonizer and the Colonized	
	第12回	Colonization continued. Richard Kim, Lost Names	
	第13回	Colonization continued. Jose Rizal, Noli me Tanjere	
	第14回	Colonization continued. Noli me Tanjere	
	第15回	Discussion	
	第16回	Discussion	
授業の概要	The seminar will be divided into two parts. In the Spring semester, we will be looking at a variety of situations in which unequal power distorts communication. As this sort of distortion is a common theme in fiction, we will look at some of the classic works that deal with that theme. In the Fall semester, we will focus more on some of the theoretical works that seek to explain how and why unequal power distorts communication. Of course, students may enrol in either of the two parts of the seminar without enrolling in the other.		
予習	Students will be expected to read each selection before the class discussion.		
復習	It would be a good idea to reread each selection after the class discussion.		
テキスト	See the above.		
参考書	Some of these works have been translated into Japanese (for example Ibsen, Douglass, Stowe, Memmi and Rizal) But some have not - or at least I have not been able to find them. Some are in the College Library (Barrie, Ibsen, Stowe, Rizal) and some are not. Of course, students may read them in their Japanese translation, when available. Seminar discussions will be carried on in Japanese,		

	English, or both, whichever seems convenient. The reading list is flexible, and readings may be added or dropped, depending on time and the direction our conversation takes. Finally, however well or badly this format succeeds as a graduate seminar, it will give us the opportunity to read some very good books.
評価方法・評価基準	Evaluation will be based on class participation. 授業態度：50% 発表：25% 参加度：25%
履修上の注意	特になし

講義科目名称 : Theories & Practices in Western Rhetoric 授業コード :

英文科目名称 : Theories & Practices in Western Rhetoric

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	共通科目
担当教員			
Daniel Broudy			

授業のテーマ及び到達目標	The primary aim of this course is to develop in students a critical awareness of rhetoric in modern discourse, its uses in political, public and private institutions and its connections to power and the methods of persuasion.		
授業計画	第1回	<p>Introductions / Critique Research Topics</p> <p>introductions</p> <p>discussion of research topics</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>readings:</p> <p>-S.A., Definition, page 131</p>	
	第2回	<p>Lecture 1</p> <p>discussion of readings</p> <p>-H.O. White's Democracy</p> <p>-launch Definitions.ppt</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>writing:</p> <p>-draft definition essay of key terms for the next meeting</p>	
	第3回	<p>Workshop 1</p> <p>workshop 1st essay (Definition)</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>finish revising</p>	
	第4回	<p>Workshop 2</p> <p>finish workshop 1st essay</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>readings:</p> <p>-S.A., Defending a Claim, page 157</p>	
	第5回	<p>Lecture 2</p> <p>discussion of reading</p> <p>-H.O. Dr. Dino</p> <p>-launch Claims.ppt</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>Brainstorming exercise, develop a dialogue with a co-worker, friend or significant other in order to generate ideas about the claim you have determined you will make. Jot down all relevant ideas and attempt to give some rough order to them so as to develop a general outline of your paper.</p>	
	第6回	<p>Workshop 3</p> <p>workshop (Research Project Outlines)</p> <p>readings:</p> <p>-S.A., Appeals to Needs, pages 227-9; Appeals to Tradition, page 346; Appeals to Values, pages 230-1</p>	
	第7回	<p>Lecture 3</p> <p>-launch Appeals.ppt</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>writing:</p> <p>Develop a rough sketch of the approach you will take in how you will appeal to an audience hostile to or skeptical of your argument. Consider the various appeals they make about maintaining the status quo and the kinds of appeals that you can make that can undermine what you may see as their fallacious thinking. This section of the overall research paper is known as the "conditions of rebuttal."</p>	
	第8回	<p>Workshop 4</p> <p>workshop 2nd essay (Appeals)</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>readings:</p> <p>-S.A., Evaluation of Evidence, pages 220-7</p>	
	第9回	<p>Lecture 4</p> <p>discussion of readings</p> <p>-launch Evidenceevaluation.ppt</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>readings:</p> <p>-S.A., Analyzing Warrants, pages 273-83</p>	
	第10回	<p>Lecture 5</p> <p>discussion of readings</p> <p>-launch Warrants.ppt</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>writing: Develop an essay that serves as a warrant for your principal argument for workshops on Days 13 &amp; 14</p>	
	第11回	<p>Documentary</p>	

	<p>documentary Orwell Rolls in His Grave (Bring some popcorn ...)</p> <p>H O M E W O R K: writing: Answer critical questions. Be prepared to discuss them next week.</p> <p>第12回 Critical Reflections discussions of the major themes and arguments in the documentary</p> <p>H O M E W O R K: -H.O. Guidance for Presentations</p> <p>第13回 Workshop 5 workshop 3rd essay (Warrants)</p> <p>第14回 Workshop 6 finish workshop 3rd essay</p> <p>第15回 Presentation 1 presentations</p> <p>第16回 Presentation 2 finish presentations</p>
授業の概要	This course examines theories of rhetoric and how they apply to discourses in various fields of public, academic and political inquiry. This course also examines rhetoric and its relationship to power in society. Coursework includes close readings of texts, speech transcripts, and a documentary film from which will emerge a student presentation.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	The Structure of Argument. (Annette Rottenberg & Donna Haisty Winchell, 2009) Boston: Bedford St. Martins (ISBN 13: 978-0-312-48048-6) (This text book can also be checked out of the library.)
参考書	Website: <a href="http://americanrhetoric.com/">http://americanrhetoric.com/</a>
評価方法・評価基準	Essays40% Participation20% Presentation.40%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：異文化コミュニケーション学特別演習 I

授業コード：

英文科目名称：Inter-Cultural Communication Thesis I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	4単位(2-0)	修士論文指導
担当教員			
新垣 誠			

授業のテーマ及び到達目標	異文化コミュニケーションに関連したテーマの修士論文を作成するための基礎的研究手法を学びます。急速にグローバル化する地球社会のなかで沖縄という地域社会に焦点をあて、多文化共生社会へ向けたコミュニケーションの課題を主に扱います。沖縄の海外移民とその子弟とのグローバル・ネットワーク、県内外国人留学生・労働者・移住者との共生、沖縄と植民地主義、沖縄のアイデンティティなどが具体的なテーマとなります。		
授業計画	第1回	研究テーマの設定 ーテーマの決め方・絞り方 ー	
	第2回	論文作成の基礎 ー文献検索、論文形式、APAスタイルー	
	第3回	テーマ案に沿った先行研究調査	
	第4回	テーマ案に沿った先行研究調査	
	第5回	研究方法の模索	
	第6回	研究方法の模索	
	第7回	研究方法の模索	
	第8回	研究テーマ案の提出	
	第9回	中間報告	
	第10回	研究計画案の提出	
	第11回	章立て案の作成	
	第12回	文献リストの作成	
	第13回	個別指導	
	第14回	個別指導	
	第15回	個別指導	
授業の概要	異文化コミュニケーションに関連したテーマの修士論文を作成するために必要なテーマの設定と研究方法について検討し、助言を行います。具体的には、受講生自身が提起したテーマについて、その意義を検討し、これまでの研究のレビュー、理論的検証、及び妥当な研究方法などを共に研究します。		
予習	講義で告知された次回の内容について、専門用語や概念などについて調べておく。		
復習	更に学びを深めるために講義で提案された追加資料や関連ドキュメンタリーなどから学びを深める。		
テキスト	テキスト及び必要な資料は、テーマに応じて講義毎に担当者が準備します。		
参考書	参考書や参考文献などについては、個人指導のもとに提示します。		
評価方法・評価基準	参加度(30%)、研究計画書(30%)および中間報告(40%)		
履修上の注意	特になし		

講義科目名称：異文化コミュニケーション学特別演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Inter-Cultural Communication Thesis Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	4単位(2-0)	修士論文指導
担当教員			
新垣 誠			

授業のテーマ及び到達目標	前期に引き続き、修士論文作成を行います。異文化コミュニケーション学特別演習Ⅰの成果を踏まえ、論文の校正ならびに調査結果などの分析を行います。学術論文における表現方法や様々なスタイルを、事例から学び修理論文の質を高めていきます。
授業計画	<p>第1回 序論提出</p> <p>第2回 調査、分析、フィールドワーク等の報告</p> <p>第3回 調査、分析、フィールドワーク等の報告</p> <p>第4回 調査、分析、フィールドワーク等の報告</p> <p>第5回 調査、分析、フィールドワーク等の報告</p> <p>第6回 各章の中間報告</p> <p>第7回 参考文献リストの提出</p> <p>第8回 論文の第1稿提出</p> <p>第9回 論文の第1稿提出</p> <p>第10回 論文第2稿提出</p> <p>第11回 論文第2稿提出</p> <p>第12回 論文第3稿提出</p> <p>第13回 最終報告</p> <p>第14回 要旨の提出</p> <p>第15回 修士論文完成</p>
授業の概要	前期での研鑽を踏まえ、各自が進めている異文化コミュニケーション関連の研究について、進捗状況を数回にわたり報告してもらい、軌道修正および内容の精緻化を図る。
予習	講義で告知された次回の内容について、専門用語や概念などについて調べておく。
復習	更に学びを深めるために講義で提案された追加資料や関連ドキュメンタリーなどから学びを深める。
テキスト	テキスト及び必要な資料は、テーマに応じて講義毎に担当者が準備します。
参考書	参考書や参考文献などについては、個人指導のもとに提示します。
評価方法・評価基準	参加度（20%）、中間報告（30%）、最終報告（50%）
履修上の注意	特になし

講義科目名称：英語教育学特別演習 I

授業コード：

英文科目名称：English Education Thesis I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	4単位(2-0)	修士論文指導
担当教員			
大城 直人			

授業のテーマ及び到達目標	英語教育学・第二言語習得分野における先行研究を概観した上で、(1)各自が探究したいテーマやリサーチクエスションの設定、(2)それらに基づいた研究計画の立案、(3)データの収集及び分析・考察、といった一連の研究プロセスを学ぶ。		
授業計画	第1回	イントロダクション(授業の目的・概要/進め方/評価方法など)	
	第2回	研究構想の再検討(指摘事項の再考と研究計画の見直し)	
	第3回	研究課題の精緻化と先行研究の調査(1)ーテーマ設定の検討	
	第4回	研究課題の精緻化と先行研究の調査(2)ー研究仮説の設定と研究方法の検討	
	第5回	研究課題の精緻化と先行研究の調査(3)ー分析手法の検討	
	第6回	予備調査の実施に向けた準備(実施計画の立案/スケジュールの調整など)	
	第7回	予備調査の実施(データの収集における留意点)	
	第8回	予備調査の振り返り(課題の特定と見直し)	
	第9回	本調査の実施に向けた準備(実施計画の立案/スケジュールの調整など)	
	第10回	本調査の実施(データの収集における留意点)	
	第11回	本調査の振り返り(課題の特定と見直し)	
	第12回	調査結果の多角的検討(1)(データの分析)	
	第13回	調査結果の多角的検討(2)(データの解釈と考察)	
	第14回	中間報告会Iに向けた準備(発表内容の検討)	
	第15回	中間報告会の振り返り(指摘事項の再考)	
授業の概要	各自の研究テーマに沿って、研究仮説の設定・研究方法の具体的な検討を行い、予備調査・本調査の実施に向けた取組を進める。さらに、データの分析・考察を行い、中間報告会の発表の準備に取り組む。		
予習	授業内容を踏まえ、質問事項や検討事項を明確にまとめておく。		
復習	指摘事項を再考し、課題の解決に向けた取組を行う。		
テキスト	浦野研/亙理陽一/田中武夫/藤田卓郎/高木亜希子/酒井英樹 著「はじめての英語教育研究ー押さえておきたいコツとポイントー」研究社 竹内理/水本篤 編著「外国語教育研究ハンドブッカー研究手法のより良い理解のためにー」松柏社		
参考書	宮本聡介/宇井美代子 編著「質問紙調査と心理測定尺度ー計画から実施・解析までー」サイエンス社		
評価方法・評価基準	授業への参加状況(30%)、研究計画及び進捗状況(30%)、中間報告(40%)等を総合的に判断します。		
履修上の注意	特になし		

講義科目名称：英語教育学特別演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：English Education Thesis Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	4単位(2-0)	修士論文指導
担当教員			
大城 直人			

授業のテーマ及び到達目標	「英語教育学特別演習Ⅰ」における取り組みを踏まえた上で、APA（アメリカ心理学会）スタイルの論文作成書式に習熟し、（１）学術的・教育的価値がある、（２）読者の興味を引く、（３）論旨展開が明解な、論文作成の具体的な技法を学ぶ。		
授業計画	第1回	イントロダクション（授業の目的・概要／進め方／評価方法など）	
	第2回	調査結果の再検討（データの分析／解釈／考察など）	
	第3回	中間報告会Ⅱに向けた準備（発表内容の検討）	
	第4回	論文構成の明確化（１）－序論の書き方（研究テーマの導入）	
	第5回	論文構成の明確化（２）－先行研究のまとめ方（研究意義の提示）	
	第6回	論文構成の明確化（３）－方法の書き方（研究方法の詳述）	
	第7回	論文構成の明確化（４）－結果の書き方①（本調査で得られた結果の要約）	
	第8回	論文構成の明確化（５）－結果の書き方②（結果の要約の推敲）	
	第9回	論文構成の明確化（６）－考察の書き方①（研究課題への回答提示）	
	第10回	論文構成の明確化（７）－考察の書き方②（研究課題への回答提示の推敲）	
	第11回	論文構成の明確化（８）－結論の書き方①（論文のまとめ）	
	第12回	論文構成の明確化（９）－結論の書き方②（論文のまとめの推敲）	
	第13回	論文構成の明確化（１０）－引用・参考文献リストの作成	
	第14回	論文の仮提出	
	第15回	論文要旨の作成と論文の完成	
授業の概要	本調査で得られた結果の分析・考察を行いながら、論文作成における留意点について理解を深める。APA（アメリカ心理学会）スタイルに準拠し、論文の推敲を重ね、完成を目指す。		
予習	授業内容を踏まえ、質問事項や検討事項を明確にまとめておく。		
復習	指摘事項を再考し、課題の解決に向けた取組を行う。		
テキスト	アメリカ心理学会 著（前田樹海／江藤裕之／田中建彦 翻訳）「APA論文作成マニュアル 第2版」医学書院		
参考書	崎村耕二 著「英語論文によく使う表現」創元社 斉藤孝／西岡達裕 著「学術論文の技法－改訂版－」日本エディタースクール出版部		
評価方法・評価基準	授業への参加状況（30％）、論文執筆及び進捗状況（30％）、中間報告（40％）等を総合的に判断します。		
履修上の注意	特になし		